随想三題

上は古典にあらわれた古字申
左は中国の古い祭器などに刻まれた古字申

書は人なり

樋口尾山・書も

〈書道家〉

街に郊外に車は氾濫する。乗物はいつも満員である。人は笑顔もなく東奔西走している。忙しいというのか、慌しいというのか、明治っ子の私どもはとまどいするばかりである。この活動的な世相の中にあって、よく前途を洞察し、時流にのって、要領よく泳ぎの上手な人、所謂世間でやりてといわれる人が、今や誇らしげに脚光を浴びているという時代である。その中に一面その言動に何等の粉飾もなければ誇張もない、全く名利の外にあって求道一途に、孜孜として精進をつづけている人を見受けて、頭の下る思いをすることもある。こういう人こそ、凡人の中の非凡人として脱帽敬服する。

私どものたずさわる書の面でも、一見何の変哲もない、平凡に見える字であっても、何等の嫌味もなければ、けれん味もなく、それでいて、真似て書こうとしてなかなかに出来ない書品を備えた、滋味豊かな書を見受けることがある。これを格調の高い書というが、何だか人柄が滲み出て「書は人なり」という言葉を思い出させる。私はこうした平凡であって、非凡な書に魅力を感じ、あこがれをもつ。

作意の多い書ということは終始技法にあけくれて、何とか人と変ったものを作り出そうと苦心して自己を打ち出すことを忘れているものをいう。これでは単なる職人芸に終る。近時各種の書展に、こういう傾向の多くなりつつあることは戒まねばならぬ。練熟の結果、抑揚はあり、行筆は流暢を極めて一見巧妙な字でも、素材の内容と隔離しては何の感銘もおきぬ。師法墨守は修練の道程に於て必ず通る関門でも、これで終始することは感心できぬ。師法を根底とし、古法をよく咀嚼して、自己薬籠のものとし自分の書を育てねばならぬ。強く自己を押し出した書、一見粗野であって稚筆の感があっても、一点一画に自己の生命を宿し、筋金の通った書にあうとこれはと考えさせられる。春蘭秋菊、各特徴を生かし百花妍を競う壮観を見たいものである。

年老いて自然になる奇矯な大人逸士の書を、近頃の若い人達が真似ようと努力する傾向のあるのはどういうことであろう。私は賛成しかねる。私は、年老いてできるだけ若々しい新鮮な文字を書きたいとねがっている。

終りにこれから書に志す人に一言したい。正しくて美しい文字に目標をおいて研修して貰いたい。書の上達は先天的な要素もあろうが、第一は何事にもいえる努力である。絶えざる練磨である。多見

多聞である。良師を得ること、よい手本を選ぶことはその捷径である。

熱帯にかける夢

佐藤　孝
〈兵庫農科大学教授〉

私の大学はこの十月篠山から六甲台の新築の学舎に移転して来ました。毎日港を見下していると、十一年前オート三輪車をもってカンボジアの農業学術調査に出帆したときのことがなつかしく想い出されます。出帆までこぎつけるのに、外貨の割当てから旅券やビザの取得と随分苦労したものです。当時から較べると海外旅行はきわめて容易になり、ブームを呈しているようです。それだけに日本人の海外に関する知識も増え、国際的な感覚を身につけ、国際的観点から物事を見るようになったといえましょう。それと共に、また、私たちと関係の深い国際的な問題も起ってきています。その一つに後進国に対する援助問題があります。ことにわが国に近く、そして関係の深い東南アジアに対する援助や協力は、最近特に大きな関心がもたれています。これらの国々は農業国であるので援助や協力の対象も農業に最もウエイトが置かれるのも当然でしょう。

しかし、このような問題に対して、わが国の社会の底辺で生活にあえいでいる困窮者があるのに、またわが国の農業が大きな壁に突き当っているのに、海外に援助の手をさしのべたり、外国のことを真剣に考えるというのはけしからんという声を耳にします。このような意見は一見もっともらしく共感を呼びやすいものです。しかしこのような論は近視眼的であり、その人たちを救う道は日本の産業を盛んにすることであり、海外市場を拡大し、後進国の購買力を高めることであり、日本の農業は世界の農業を考えずしては解決の糸口を見出すことも出来ないという論もあります。しかしこのような利己性からだけで低開発国の援助を考えることは国際的には許されません。爆発的な人口増加で世界の食糧は危機に頻しています。特に、その爆発点はインドや東南アジアにあります。この危機を救うためというヒューマニズムに基く援助では、自由諸国も共産圏諸国も一致していることであり、国連の機関の決議や勧告で一応国民所得の1%をあてるという基準が決められています。この金額は膨大なものであり、私たちと直接つながりをもっているものでもあり、これが有効に使われることに大きな関心をはらわなければならないと思います。

私のやっている研究は熱帯農業の開発という点で、これとも大きなつながりがあり、確かに一種のブームに乗っているといえるかもわかりません。しかし、私自身はこのような問題の起ることを予想してやってきた訳ではありませんし、ヒューマニズムから始めた訳でもありません。ましてやブームに乗るためやっているものではさらさらありません。私は学生時代から熱帯の自然のもつ植物生産力に何となく憧れをもっていました。だんだんとその道の研究をし、体験をへるにしたがってますます興味が深くなり、今では熱帯農業の研究は私のライフワークと考えています。最近は特に、赤道に近く、一年中雨の多い熱帯降雨林という原始林におおわれた広大な未開発地、例えばボルネオやニューギニアに限りない魅力を感じるようになってきました。このような土地はマラリヤ等のしょうけつ地帯であって、そのため人口がきわめて少なかった。第二次大戦までのヨーロッパ人が企図したプランテーションは豊富な労働力と安い労賃が得られることが基本になっているため、大部分が農業の適地

でありながら放置されていました。第二次大戦後の医学や医薬の発達、DDTやBHCのような安価で強力な殺虫剤によってマラリヤの駆逐も比較的容易になってきました。機械や農薬、特に除草剤の発達によって農業開発の可能性がますます高くなってきたと私は考えています。ここに農学、医学、工学、理学の他、経済学、社会学が協力して新しい開発――搾取を続けた古い型のプランテーションではなく、ゆがめられたナショナリズムも入らない立派な農業の開発――が行われ、人類に貢献できることを夢みています。

甲子園球場とともに

川口永吉
〈甲子園球場長〉

菊かおる文化の日に、昭和四十二年度の県文化スポーツ賞を受賞しました。阪神甲子園球場の場長として、一兵庫県人として、これほどの喜びはありません。受賞の日、神戸国際会館の舞台で金井県知事から〝スポーツ界の発展に寄与した功績による〟として楯と青銅の像をいただきましたが、青銅の像を手にした時、両手にズッシリと感じた重みは、長年、甲子園球場とともに歩んできた生活の全てが秘められているように思えました。過去甲子園球場の仕事にたずさわった昭和十年から十八年まで、さらに二十六年から現在まで、夏の大会、選抜大会をふくめて40回の高校野球大会をお世話してきましたが、今度の受賞は、その労に対してというわけでしょうか。

思えば、甲子園球場長となって十七年。全国の高校球児があこがれる夢の球場に恥じないグランド作りに、精魂を傾けてきましたが、球場生活で一番気苦労の多かったのは年二回行われる高校野球大会だったようです。

雨の心配、土の配合、選手への心づかいなど……。雨が降った時の試合可能か不可能かの決定には、いつも悩まされました。わが子のように育ててきたグランドとはいえ、大会独特のふん囲気もあり、大会運営上のこともあって、ある程度の配慮は必要だからです。そのためには甲子園特有の気象条件をマスターしなければなりません。極端な例ですが、同じ西宮市内でも甲子園球場では試合ができる状態でありながら、四キロと離れていない西宮球場では雨が降っているといった具合です。よく漁師が、雲の動きを見て出漁を判断するといいますが、長年の経験で雲の流れ、高低、黒白によって気象の移り変わりをほとんど間違いなくキャッチできるようになりました。また、お気づきにならない方が多いと思いますが、夏と春とではグランドの土の配合が違うのです。日光の照り返しを計算して、夏は黒土と砂の割合いを7対3、春は6対4にします。もちろん選手が最高の条件でプレーできるようにするためです。

そのほか、選手の健康管理。たとえば、延長戦になった場合、あとの試合のため、ユニホームのまま控えている選手たちが、カゼをひかないか、くたびれはしないかと座席のあいたところへ坐らせたりするなど気苦労は数知れません。

ともあれ、今年は夏の大会が五〇回、選抜大会が四〇回を迎えます。いつに変わらぬ高校球児の純真なプレー、栄光へ向って、青春の情熱をかたむけてぶつかり合う若人たち。この甲子園のグランドで郷土の期待を一身に集めた選手たちが、十分に実力を発揮できるような舞台を作るのがわたしたちの仕事です。はなやかなグランド上にくらべて、縁の下の力持ちだといわれるかも知れませんが、わが家とも、わが庭ともいえるこの球場で、しかも好きな野球のお世話ができることは大へんしあわせだと思っています。

★ある集い★その足あと

神戸ジャガイモ・クラブ

（神戸青年会議所ゴルフ同好会）
甲斐克也（甲斐機船KK）

―本文七頁参照―

神戸ジャガイモ・クラブとは、神戸青年会議所のゴルフ会の名称で、これは青年会議所の英文の頭文字JCをもじったものである。

神戸青年会議所が発足して十年になるが、当初会員相互の親睦を深めるために、同好会の一つとしてゴルフ会を催したのがそもそものことの起こり。以来、春秋二回の例会を欠かさずひらいて今日にいたっている。

はじめは、十数人の参加者であったのが、会員の増加と共にゴルファーも増え、このごろは四十名を超える申込者があって、世話役は会場さがしに一苦労といった状態。腕の方も年々向上して、現在はハンディキャップ十八の者までがAクラス入りを許されている。

トップクラスは有吉雄太郎氏（隆昌海運㈱取締役）・乾英文氏（乾汽船㈱取締役）・甲斐克也氏（甲斐機船㈱取締役）等のハンディキャップ五を筆頭に、継谷明氏（継谷商店社長）・中野弘敏氏（兵庫ボルト㈱取締役）・板倉光明氏（昭和木材㈱社長）といったところ。しかし優勝者に与えられる理事長杯はいつも穴馬が持って帰るというジンクスがある。

そして他のJCとの対抗試合や兵庫県・近畿地区の競技会も年に数回行われ、その都度何人かの入賞者を出しては〝神戸強し〟の念を深からしめている。

なにしろ〝若いわれら〟を旗印にする血気盛んな連中の集まりであるだけに、一振り三〇〇ヤードのシングルクラスから「口では敗けないんだが、行方は球に聞いてくれ……」というキャディさん泣かせの者までが、日ごろの仕事を忘れ、接待でないゴルフを楽しんで腕を競い、和気あいあいのうちに散会するのを常としている。

JCの信条は奉仕・修練・友情の三つである。はじめは二世の集まりのように思われていたJCも発足来十年、経済団体の一員として地域経済の発展を願い、交通公害問題にとりくみ、青少年問題等にも真面目に力を注いで、年々培ってきた力の結集が、昨秋神戸で開催され大成功をおさめた全国会員大会であった。世間の関心も集まり、考える団体から行動する団体へと飛躍をとげようとするJCのメンバーの息抜きが、たまのゴルフであっても悪かろうはずがなく、それ故に一段と楽しい会にすることもいなめない。二百人にもなろうとするメンバーの和の源は、この会をおいて他にはないといっても良いくらいだ。

これまでの記録で忘れることの出来ないのは、三十八年秋の例会での六甲山五番ホールでの藤堂高弘氏（藤堂真珠㈱社長）の霧の中のホールインワン。さんざんさがしまわったあげくに穴の中に入っていたというしろもので、その晩、参加者全員でお祝いをした楽しい思い出がある。

そして昨年の例会は天下の広野ゴルフクラブでおこなわれたが、ジンクスはまたも破れず、Aクラスは鍋島一夫氏（西浜運輸興業㈱社長）、Bクラスは小林博司氏（小林桂㈱取締役）が理事長杯を獲得することとなった。

'68 a happy new year

今年もセンター街 **ユーハイム**コンフェクトを
ぜひご利用下さいませ。

● 3階サンドウィッチパーラでは ティーパーティー・
サンドウィッチパーティーのご用意も致しております。

三宮センター店/三宮センター街(洋菓子・喫茶・パーラー) TEL 33－2421・4314

北欧の銘菓

ユーハイム コンフェクト

本社・工場及熊内店／神戸市立美術館東隣 TEL 22－1164・9865
さんちか店・生田店／三宮生田筋・元町店／三越前・神戸デパート
店・甲子園店・垂水店・大丸店／神戸・京都・阪急店／神戸・大阪
三越店・梅田店・芦屋店

＊世界で最も名誉
ある時計ロンジン

特約店

美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL 33－1793
三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL 33－8798

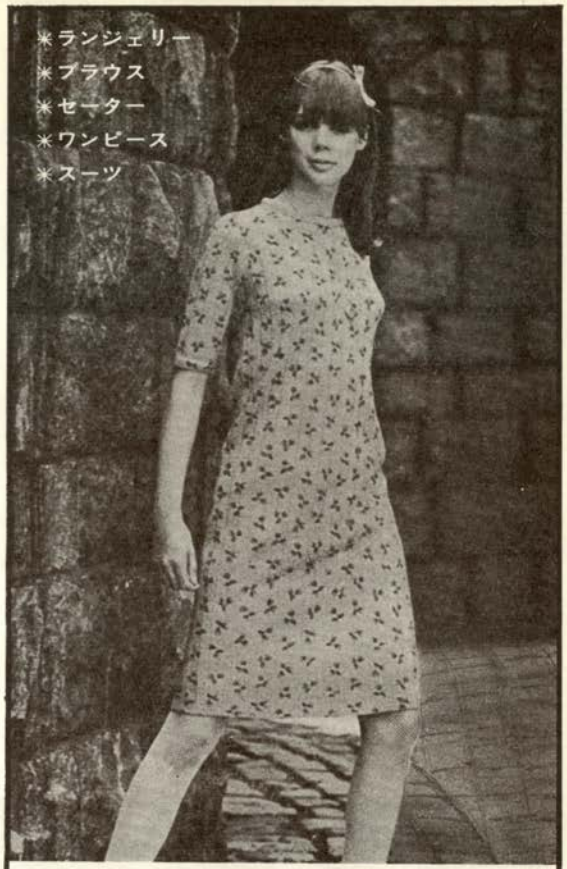
A HAPPY NEW YEAR

チョコレート＊キャンデー

ゴンチャロフ

本　社　神戸市生田区加納町4の1　TEL ㊴－2636
直売店　さんちか・スイーツタウン　TEL ㊴－3563

＊ランジェリー
＊ブラウス
＊セーター
＊ワンピース
＊スーツ



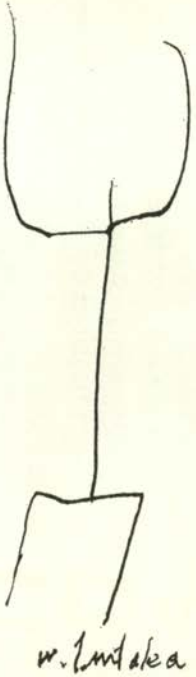
スギヤ

トア・ロード市電大丸電停前
TEL（33）3436
六甲店・阪急六甲駅
TEL（87）2731（呼）

□随　想□

神戸とわたし

山田無文
え・津高和一



京都の嵐山に、川崎家の別荘があって、初代正蔵翁の静養の場所であった。ときどき行かれるといつも天龍寺の管長台岳和尚が招かれて、お話相手になられた。時に烏鷺をたたかわせて時を過ごし、食事を共にされることもあったが、いつも漬物が出ない。

そこであるとき「川崎さん、失礼だが漬物を下さらんか」というと、「いや、まことにすまんが、それだけはご勘弁ねがいたい。わたしは漬物がきらいでね、他が食べてもそのにおいがかなわんのだ」ということであった。

そこで台岳和尚が「そうですか、しかしそれは面白い話ですね。実はわたしの方のご開山が、漬物がおきらいだったそうでしてね。わたしの所では、開山忌には一山が今も漬物を食べんことになっております」と、夢窓国師の逸話を語られると、正蔵翁すっかり喜んでしまった。

漬物がきらいだという、たったそれだけのことでも、何か一人前でないような劣等感を感じておったが、夢窓国師のような高僧でもそうでしたか、ということで、すっかり夢窓国師がすきになり、天龍寺の信者になってしまわれた。

そして布引に徳光院を建てられるとき、台岳和尚の師匠である、龍渕老師を開山とされ、天龍寺の末寺が一箇寺建ったのである。好き嫌いをするなと古人は誡しめられたが、好き嫌いもまた菩提であろうか。布引の滝に近く、円山の山陰深く、正蔵翁の植えられた樟樹の森は老い繁り、その幽邃閑寂なること、まさに神戸の名勝の一つといえよう。

龍渕老師はその静寂を愛し、悠々自適して晩年をここで送られたが、その頃、商大の学生であっ

た、石井光次郎、丸谷喜市などという、元気な連中が参禅に通ったものである。のち神戸市長になった野田文一郎氏などは、最も優秀な居士の一人であった。

わたしの師匠、精拙和尚は、ここで龍渕老師に随侍しつつ修行をされ、その後を嗣いで徳光院第三世となられ、台岳和尚遷化の後、またその後を襲うて、天龍寺管長に出されたのである。

わたくしどもが、天龍寺に雲水をしておるころ、正蔵翁の冥日には、川崎家から必ずお参りがあって、雲水に白木綿一反づつを供養されたことも、懐しい思い出である。

その頃、神戸から五人のさむらいがときどき坐禅に来られたが、ついに揃って得度式を受けられたことがある。キリスト教なら洗礼である。川西清兵衛、田村市郎、伊藤長次郎、岡崎忠雄、榎並重蔵という顔ぶれである。岡崎さんがよくいわれたことがある。「とても悟りなどという境地ではないが、俺は坐禅をしたぞという自信が、自分の仕事に随分プラスになった」と。公私これらの皆さんにはお世話になったものである。

神戸に味道会という会ができて、精拙老漢が毎月提唱に来られるのに、お伴して来るうちに、神戸とはますますその親密度を加えることになった。竹田龍太郎氏がご存命中で、よく同家で会が催された。この頃りっぱな遺句集をいただいたが奥さまはご健在であろうか。

殊にわたくしが厄介をかけたのは、何といっても、栄町のへちま倶楽部である。食いたおし、呑みたおし、しゃべりたおし、いつしか神戸っ子の面々とお近づきになって、とうとう神戸が離れられなくなったというわけ。あの世話ずきな、にぎやかなことの好きな、はばの広い貫一さんが、今ごろはどこにどうしておられるかと思うと淋しい。大方三途の川のほとりで河童くらぶでも開いておられるに違いない。お浄土の蓮の華の上でじっとしておるような人じゃない。

その中にわたくしの師匠にも逝かれてしまい、どこぞ神戸の焼あとに、仏教会館でも建てようかと、貫一さんと相談しておったところへ、西川直翁居士や、鳥越眼鏡院夫人などに引っぱられて、毎月神戸へ出かせぎに来ることになり、とかくするうちに五の宮の鳥居の上へ詣りあげられるはめになってしまった。

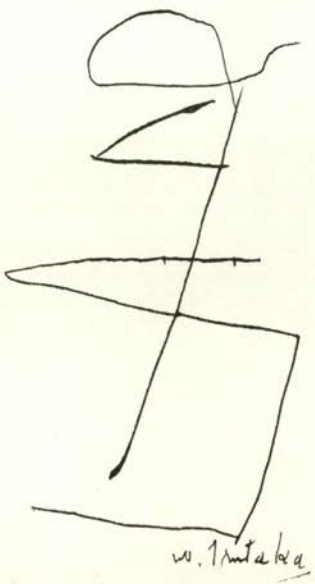
そして雲水に托鉢させて、その上にあぐらをかいて、神戸ほど良いところはない、山があって海があって、気候がよくって、人間があっさりして、しかも国際的で、その上温泉があってなどと一人前の神戸っ子になったつもりで、外来者を煙に巻いておる今日このごろである。

味道会は、この後徳光院で毎月開かれることとなり、精拙和尚亡きあとは、しばらく台岳和尚の弟子である広島の仏通寺管長、益州老師が後を続けて下されたが、益州和尚も遷化され、七、八年来わたくしが、松本一雄、永井幸太郎、千足覚治などという、古つわものを相手に、先輩諸老師の位牌の前で、冷汗かきながら、師匠ゆずりのたわごとを語っておるわけである。しかも客年は龍渕老漢の五十回諱、精拙和尚の二十三回忌を迎え、今昔の感一入深いものがある。〈祥福寺僧堂師家〉

□随　想□

新年雑感

田辺聖子
え・津高和一



新年からはじまる私の仕事の一つに、評伝があって、たのしみにしている。伝記というよりも、私自身が捉えたある人物像、ということになりそうである。

それは著名な明治の女流歌人であって、現今ではかなり広く世間に宣伝されている。テレビにもなるし、本にもなっている、彼女の一生は、そのまま日本文学史の一時期の象徴であって、こくめいに生涯の事蹟を追うだけでも面白いのであるが、しかし、私としては何とか彼女のナマの人間をみつけ出したい、その息吹きにふれたいと思うのである。

彼女に関する本を二、二冊読んだら、これが正反対の評価で、どちらもむろん、文学活動の功績についてはみとめているのだが、人間的、人生的には、見方が分れていた。

肉親の書いたもの、親友の書いたもの、面識のない文学者の書いたもの、さらには彼女と反対の立場の詩人、などがめいめい、群盲巨象を撫でて百家争鳴のにぎやかさである。

一書は彼女を色キチガイであるとののしり、一書は貞淑温順な婦人のカガミであるとたたえている。

片方が奔放で出しゃばりだったというと、一方は情熱的なのであると弁護する。

それにつれて、彼女自身はもとより、周囲の身内や縁辺の評価もかわる。シーソーのように彼女と反対の立場にある人が、上ったり下りたりする。

彼女の良人の値打も、それにつれて刻々に変るわけである。

三十年たって彼女の生きたあとをたどろうという私は、誰を信ずることもできないので、結局、彼女ののこした歌や文章や、写真などの中からさぐり出すことになる。私もまた群盲の一人である。

しかし、同じ暗闇の手さぐりでも、私は彼女の文学作品にのみ、生の息吹きを聞こうとしている。結局、人を語るのは残された作品しかないであろう。しかし、作品がみな語るかというと、そうでもなく、まして、真実を語っているかどうかということになれば、これはもう、返事のしようもない。私自身の例で考えても作品は真実の照り返しでこそあれ、私の正直な目録ではない。

そこから飛躍して真実を求めるには、自分の中のある部分と波長が合わなければならない。彼女の作品はどんなデータよりも雄弁に彼女を語っているのである。

あるところで、飛躍して共感がひらめくことがある。すると、私は彼女を理解したと思う。——そういう発見がときどきあった。

そしてそれは彼女に関する文献だけを漁っていては理解しにくいものであった。

そういうとき、あんまり論理的に分析すると、かえってデータにふり廻されて、人間像は四分五裂になってしまう。

アホほど、物の真髄をさぐりあてるときがある。

萩原朔太郎は作家の修行は鹵鈍（ろどん）になることだといっている。

それにしても、私があらためて考えさせられるのは、人間が人間を全的に理解することは難（かた）い、ということであった。

とくに、その女主人公の歌人の良人は（彼もまた歌人であるが）多情多感、明治のロマンチシズムの権化みたいな男で、妻を三人とりかえ、恋人を幾人ももち、ために女主人公はたいへん苦しまされるのであるが、結局、幾人も子を生んで添いとげ、今は二人仲よく一つの墓に眠っているのである。

それほど恋い慕われた良人の、男としての魅力はどんなところだったのだろう。女の私としてぜひくわしく知りたいところであるが、これもその手がかりさえない。写真でみると、明治女学生にもてそうな、ハイカラ壮士風の好男子であるが、真の魅力はごく卑近な日常坐臥のうちに出てくるので、この微妙なニュアンスは、さしもの文学作品にも投影しない。

我々も死後、いくらもたたぬうちに忘れられ、消えてゆくのかと思うと、いかにもはかないような、またほっとするような気持である。

残した業績や思想は百年ののちに知己をもつかも知れないが、彼が、あるいは彼女が、ふとほほえむときのしぐさの魅力、人を魅する声音、異性の胸をかき乱したまなざし、やさしい心使い、あるいは意地わるな性癖、悪習、生きているときに周囲の人に与えた感動はみんな、中有の闇に沈んで、天に還るのである。

女の私の感覚でいえば、それはいかにもはかなく、私たちは命あるだけを大切に生きて、精いっぱい愛したり憎んだりすべきである。

〈作家〉

★ヨーロッパ旅行記★

変貌するヨーロッパ

牛尾吉朗〈ウシオ工業KK社長〉

今度の旅行では、イタリー＝スイス＝フランス＝ドイツ＝イギリス＝デンマークというコースで、ヨーロッパを見てまわった。ロンドンでは、ちょうどポンドの切り下げに会い、その情況を身近かに見てきたので、それも含めて、現在のヨーロッパの状況や私の感じたことなどを、思いつくままに記してみよう。

まずイタリーでは、四年前に行った時とは、あまりに変っているのでその差異に驚いた。第一にイタリーの道路計画が完全に成し遂げられ、全地域にわたって、高速道路が完成していること。第二にみんなが必ず車をもっていること。必需品として、自転車に変わる車の普及度が非常に高く、日本とは比べものにならない。しかも都市においては、数十万円の一般大衆車を使い、大型車はいっさい使わず、タクシーはあまり利用しないという段階にまですすんでいる。日本の文化の十年先の状態が現在のローマでつくられつつあるという感じだった。第三に今までイタリーは、ヨーロッパで一番歴史の古い国として、歴史を誇り古典を誇っていたのが、そういう感覚から抜け出そうとしていること。例えばローマの新都市計画はものすごいもので、二、三千年の歴史をもった古跡のある旧ローマ市とは別に、新ローマ市ができあがっているが、これは、実に大規模で、近代建築の粋をあつめた、すばらしいものだ。官公庁など政治・経済関係の機関をすべて新ローマ市に移し、旧ローマ市の方は、あくまでも歴史の街として残そうとしている。このようにイタリー人は、近代と古代とをはっきり分けて生活しているわけで、この点、合理的に考えているようだ。

× × ×

それと、これはヨーロッパ全部にあてはまることだがローマでもロンドンでも、いわゆる工業都市と商業都市とが、はっきり分離されて存在している。こういった面にも近代合理化があらわれていると思った。例えばロンドンでは、ロンドンから汽車で三時間行ったダービーの周辺に工場が密集していて、ロンドン市内には工場は一つもない。このように工場地域は、ちゃんと決定されているわけで、日本のようにゴチャ混ぜではなく、合理的な国家体制が成り立っている。

× × ×

イタリーでは日本人の存在は、全く重要視されていない。「日本ってどこにあるのか？」ときく人もあるし、ジャパンというのは中国の一部分だと思っている人が多い。オリンピックでTOKYOだけは有名になったけれど、TOKYOのある日本という程度の知識しかない。貿易に関しても対米輸出は全面的にやっているが、対

エセドラの噴水の前で牛尾氏

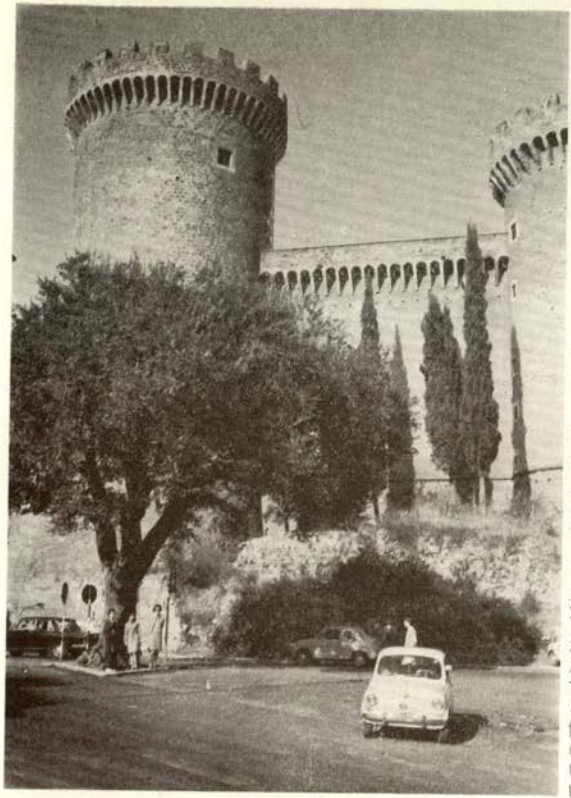
日輸出は考えていない。日本が輸入国であれば、日本の存在も大きくなると思うけれど、現在の日本はあくまでもエキスポート中心の国だから、ヨーロッパにとっては全然関係のない国のようだ。ぼくが機械を購入に行っても、日本でそれだけ近代的・文化的な設備をもった工場があるのかと質問されるし、日本の商品を見せるとメイド・イン・ホンコンだろうというのだから、全く情けない。日本という国は、ヨーロッパに対して、宣伝が足りないと身にしみて感じた。

ところが、ドイツに行って、日本を研究しているフランクフルト大学の教授に会った時、ぼくが「ドイツで一番いいものを買おうと思うのだが、何がいいか？」ときくと、「何もない。自分は今年、東京に行ってきたが、驚いたことは、あれだけの商品がよく揃っている国は、世界中どこにもない。カメラにしても時計にしても最高品がある。それなのに、なぜドイツのカメラを買うのか？」という。日本が低開発国で品物がないのなら分るけど、現在の日本からきて、ヨーロッパの製品をかいたがるのか、どう考えても分らないと、日本をよく知ってる人は、そういうが、それは真理だと思う。それは結局、日本人のヨーロッパ崇拝やコンプレックスが原因であって、パリが世界の流行の中心だと思っている限りは、いつまでも日本人はダメなんだなあと思った。

× × ×

ヨーロッパでは百貨店などに買物に行くと、まず「あなたの階級は？」ときかれる。つまり、商品の売場が、ファースト・クラスのものとか、セカンド・クラスのものとか、階級別にはっきり区別されていて、お客の階級に合わせて、その中から選ぶようになっている。自分の階級を自覚しているので、日本のように安サラリーマンが、背のびして、スイス製の時計をもったり、イギリス製の生地で仕立てたりするようなことはなく、それでいて、その人の身分に相応のもので、たとえセカンド・クラスのものでも、結構いい身なりはできるようになっている。だから向うのタクシーの運転手でも、こっちにくれば社長で通用する位のいい格好をしている。これには驚いた。

パリでも、料理店は星の数によって、その格がきまっていて、三つ星が五軒あり、その次に二つ星、一つ星という順になっている。しかし、これは格式だけの問題で、うまいとかうまくないとかには関係がない。だから、自ずと行く階級が決まっていて、三つ星の店では、みんな正装して食べている(というより、食べさせてもらっている)。結局、こういう風に階級別にはっきり区別した方が、無駄がなく、合理的なのだろう。



ティボリの城にて

× × ×

イギリスは、以前に行った時より、国民性がフランクになったというか、ぐっと活気がでてきたという感じでよくなっていた。〝英国紳士〟ということばがあるように、イギリス人は非常にかっちりしていて、自分の範囲内のことだけは、徹底的にやり、それに対しては忠実だが、それ以外のことには、いっさい関与しない。例えばぼくが、取引先の会社にいって話をしている時、その横に会社の上役の人が座っていて、その人に関連のある話をしているような場合でも、その人は知らん顔をしている。それで後になって、「実は……」と出てきて、また同じ話をする。こんなまわりくどいやり方はかなわないと思ったけれど、英国人気質というのはおもしろい。

ポンド切り下げに対しても、考えるのは経営担当者だけだといって、イギリス人は手を打とうとしない。だから、ぼくが成功したのは、ポンド切り下げの二日前にイギリスで機械の契約をした時、向うの輸出部長がいうのに、「ぼくとあんたとの間には、ポンド切り下げは全く影響ない。あるのは契約だけだ」と。たとえ二日後に切り下げが行なわれても、会社が損をするだけで、われわれの契約には何ら関係ないんだから、サインしようじゃないかという。とにかく、アングロ・サクソンは、ユーモアのある紳士の国だ。

× × ×

ヨーロッパをまわって痛感したのは、日本の人口増加問題と労働力不足の問題。現在、アメリカを除いて、一億ドルの生産能力のあるのは、日本、ドイツ、イギリスの三カ国であるが、ところが人口比率からいえば、日本は一億、ドイツ、イギリスは五千万という状態で、同じ生産額をやっている。これはどういうことなのか？しかも、日本だけが労働力が不足しているとか、賃金が上がってきたとかいっている。従って、日本もドイツ、イギリス流に考え方を根本的にかえないと、ついていけなくなるんじゃないかと思うのだが……。

イギリスのポンド切り下げがあった時、イギリスは日本と同じような状況だったわけで、イギリスは日本よりも早くきているだけで、やがて日本もこういう形で何かが起こるだろうと思う。日本の〝円〟は国際通貨ではないが、ポンドは国際通貨なので、大変な問題が生じるし、ポンド切り下げは絶対行なわないだろう、行なうはずがないというのが、ロンドンにいたわれわれ日本人の考えだったのが、それが現実に行なった。なぜそれをやったかというと、イギリスなどのヨーロッパの国の国民性というのは、日本人とは根本的にちがう。日本人は面子を大事にするが、ヨーロッパではすべてを合理的に考える。だから一国家にしても、一個人にしても同じことで、国家政策としてなさねばならないと決定すれば、いかなることがあっても断行する。

ティボリにて

× × ×

このように見てくると、ヨーロッパには文明国家として合理的な考え方の国が多いが、その反面、斜陽の国も多いため、ヨーロッパを、歴史と伝統の国であると見るのか、それともいかにして斜陽の国家から抜け出して近代国家への新たなる転機を迎えようとしている国家と見るのか、あるいは文明、文化が最終地点に到達した国であって今後どう変動するのか、まだ今は進行形ではなく、これから変貌する国であると見るのか、その見方によって考え方がちがってくるわけで、私は、今回、ヨーロッパをまわりながら、「ヨーロッパはかわった！」という強い印象をうけた。

きものと細貨

おんがら屋

神　戸

西　店／三宮センター街・電話３３—８８３６（代）

東　店／三宮センター街・電話３３—０６２９

三宮店／さんちかタウン・電話３９—４３０３

東　京

銀座北店／銀座並木通り・電話573—５２９８（代）

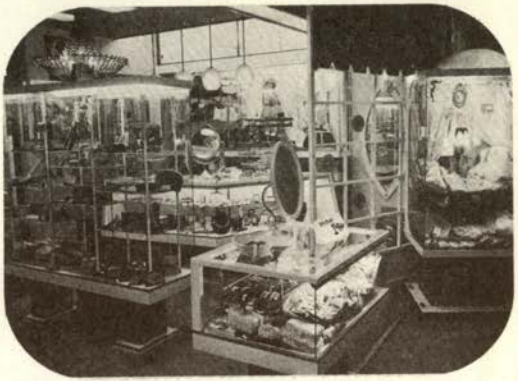
銀座南店／銀座並木通り・電話572—４８４７

（京阪神銀座タウン）

明けまして　おめでとう　ございます

＊芸夢・ウィンドーめぐり

〈プティモンド・エッチャン〉



鴨居羊子の下着と
舶来アクセサリー
服飾小物類の店
神戸っ子の皆さまも
ぜひお立寄り下さい

コスチュームアクセサリーの店

GEIMU 芸 げいむ 夢

神　戸　店／トアロード　(33) 2293・8643

大　阪　店／心斎橋ロビー　(211) 5153・1044

プティモンド・エッチャン　(211) 8503

さんちか店／レディスタウン　(39) 2855

京　都　店／藤井大丸ＩＦ　(23) 8181

東　京　店／東急日本橋ＩＦ　(211) 0511

★神戸っ子放談

愛郷精神で神戸の繁栄と発展を

南部　圭三（前神戸青年会議所理事長・光印刷株式会社社長）
樽本　久（神戸青年会議所理事長・樽本汽船株式会社常務取締役）
藤堂　高弘（神戸青年会議所副理事長・藤堂真珠株式会社社長）
木下　健（神戸青年会議所副理事長・株式会社三富商店専務取締役）
橋本　一豊（神戸青年会議所副理事長・株式会社マツダオート兵庫専務取締役）
滝川　博司（神戸青年会議所副理事長・兵庫トヨタ自動車株式会社取締役・管理本部長）

★十周年迎えた新役員の抱負

編集部　本誌では毎号、神戸経済人の先輩、後輩に対談をしていただいているのですが、今号は新年号でありますので若手経済人、神戸青年会議所の新役員の方々に、新年にあたっての抱負などをお聞きしたいと思います。

樽本　神戸ＪＣが創立されて、今年で十年になります。今年の神戸青年会議所活動の基本として一つに、お互いの修練の場にしようと思います。次代を担う指導者として自らに与えられた社会的責任を自覚し、政治、経済をはじめとする各分野における内外諸情勢の変化に対処することのできる指導力と優れた識見を養うことが、それぞれの企業繁栄をもたらし、神戸の、また地域社会の繁栄に貢献することになるということです。第二に、日本青年会議所でも盛んに唱えていることですが、ＣＢ生活つまり明かるい豊かな、住みよい町づくりに積極的に取組むことです。神戸に生まれ、育ち、働き、生活する私たちは郷土の繁栄と発展を図るために、現在、神戸のかかえている明石架橋問題、交通戦争問題、勤労青少年問題、社会福祉問題、さらに瀬戸内、近畿経済圏問題など、神戸の将来に関する諸問題に対して積極的に取組んで勉強し、解決するよう努力したいということです。各委員会の合同委員会を開いて、もう一度私たちなりに基本方針を決めたいと考えます。第三には、十周年を迎えた神戸ＪＣの、十年の歩みのなかの輝ける数々の業績は、諸先輩の友情と団結の成果であることを忘れられない。友情と希望に満ちた創始の精神を継承し、私たちも一層の結集を計りたいのです。友情というものはこういうグループが基盤になりますから、グループを大切にし、よく学び神戸を考えて、よりよい神戸ＪＣを作っていこうと話し合っているわけです。

南部　神戸ＪＣは十年目という一つの区切りがきたわけですが、十年間の時代のなかにはいろんな時代があったと思うんです。いい時代もあったでしょうし、いろいろ反省しなければいけない時代もあった。しかしそれはそれなりに、十年目を迎えて、対外的な評価は非常に高いと思うんです。それをふり返っての、次の新しいステップになると思います。もう一度足元をみつめようということ、また、創始の精神にもどって考える年にしようということは非常に結構だと思います、それから先程おっしゃった神戸ＪＣは、神戸を愛する青年の集いであるということ。これは名文句です。たしかにその通りです。

神戸を愛することは国を愛することにもつながり、そうでなければいけないのですが、ただ単に神戸を愛する集団なんだというだけでなく、そこに何らかの型で勉強した成果を地域社会のなかで興していかなければなりません。だから明かるい、豊かな、住みよい町づくりに積極的に取組んでいこうとしておられることに大賛成です。さらにお互いに違和感があってはいろんな目的が達せられないと思います。まず基本にあたるものはみんなの同志的な結合ということで、団結とか何とかいうことは、働く者だけのものではなくて時代をめざす人のなかに同志的な結合があって、はじめて目的が達せられるのだと思います。JCは共通の場で、同じことを考えられるほんとにいいグループです。四十才というひとつのきりがあって、常にフレッシュだということもいいことです。この三本柱を中心としてやっていかれる今年は、神戸JCの十年目の節となり、次のステップとなるでしょう。特に昭和一ケタ後半の方たちによる成果は、今までと違った意味で大いに期待できると思います。

藤堂　私は今度理事長からの指名で、渉外と国際と日本JC関係を受け持っています。国際面において、神戸JCは日本JCのリードを保っています。はっきり表面に出てきているのは神戸JCのOAA問題です。あれは兵庫方式で出していますが、できればこれをもうひとつ改良していいのを作っていこうというのがOAA問題です。神戸の兵庫方式とは違う意味の教育青少年問題を出してきているのですが、神戸が最初手がけたものをより練ったものを他所のJCがどんどん手がけていて、国際委員の方でも、東先輩が尽力され日本JCでリードをとって、われわれもそれに続いたのです。現在でも、他所から神戸の国際委員会に負けるなということで、どんどん外を見て歩こうとしています。神戸に追いつけ、追いこせと各JCがハッパをかけていることをみても国際港神戸はリードをとっているのです。

木下　私は抱負という大げさなものではありませんが、あとからふり返ってみて、この一年がいい一年間であったなあという感じで終るのが一番大きな願いです。私の担当が総務、会員、社会福祉ですが、神戸JCのメンバーが仲良く、といいましても遊ぶことだけでなく、仲が良いなかにも規律を持っていけたらと考えています。あくまでも理事長のアシスタントとして、理事長の考えておられることをメンバーのすべてが理解できるように努力してみたいと思っているのです。

橋本　私は十周年を迎えた理事長方針である内部充実に力をそそいでおられることには全く賛成です。創立以来伸びていく神戸JCでなければいけない、対外的にもハッスルして、外へもぐんぐん勢力を伸ばしていったので

樽本　久氏

滝川博司氏

橋本一豊氏

すけれども、十周年だからといって外に宣伝する必要のある年ではないと思います。ここでもうひとつふり返って、内部充実を計ってみようということ、そしてその基盤のうえに立ってこれからのＪＣの運営方向を定めていきたいということは非常に立派だと思いますし、また、修練の場たらしめたいということ、神戸ＪＣのメンバー全員がもう一度勉強しようではないかということで、私がＬＴを担当していくうえで、全員が参加できる修練の場を本当の十周年という意味でつくりあげたいと思います。あと教育青少年、政治問題、最近特に教育制度の問題が取りあげられてきていますが、それに関連しての、道徳教育の問題、働く青少年問題など、教育青少年の問題には話題が沢山あるわけです。また、政治の問題にしましても昨年あたりからＪＣは政治をタブーにしてはいけない、後向きであってはいけないと積極的に考え、発言する場をつくらねばならないということでできた委員会ですが、そういう面においてもＪＣ内部でうんと勉強し、討議して、外に向って出ることのできるようなＪＣの充実が必要ではないかと考えています。

滝川　私は広報、経済活動、交通公害問題と三つの委員会を担当するわけですが、先程から何度もいわれていますように、今年は十周年になりますので、神戸青年会議所の十周年史というようなものを作ってみようという計画を持っています。単に十年の回顧録ということに終らさず、将来の神戸ＪＣにとってジャンプのためのステップの資料にできたらと期待と抱負を持っています。経済活動委員会は最近特に企業経営者の社会的責任が大きく取り上げられていますが、昨年にひきつづいて、この問題をより掘り下げていくとともに、一方では地域社会、地域経済に密着した活動が他面では、経済活動に大きな役割になってくると思いますので、神戸ＪＣが他の経済三団体(商工会議所・経済同友会・経営者協会)とともに、経済四団体として肩をならべて、神戸市・兵庫県に貢献できるように、たとえば、明石架橋の問題とか山陽新幹線の問題など神戸に密着した問題が今年はクローズアップされてくると思いますから、積極的に意見を述べていきたいと思っています。交通公害問題についてはますます大きな社会問題になっているわけで、昨年は青年会議所の兵庫ブロックが全国のブロックではじめて、ブロック単位としての交通モニターを実施しました。交通モニター制度は神戸が先がけたので、これを全国に推し進める運動とする努力をしたいと考えています。

樽本　先程、橋本君が発言したＬＴ問題、リーダーシップトレーニング、指導者開発の点で強調したいことがあります。それは積極的に会員の相互啓発を計ることで会員相互に優れたところを頂戴しあおうではないかと思う

南部圭三氏

藤堂高弘氏

木下　健氏

のです。委員会の講師でも外から招く講師ではなく会員のなかで講師を立てるというようにすればいいと考えます。

橋本　神戸ＪＣ内では講師にはならなくとも他所へは講師で出ていっている人も多いのですから、十分考えられます。同じＪＣメンバーだという気安さから今までは気がつきませんでしたが、そういう意味の相互啓発はぜひ必要ですね。また逆に考えて、自分の修練のためにしゃべる機会があってもいいのじゃないですか？

樽本　これはきついなあ（笑）

★神戸の良さは国際的

編集部　新春を飾って神戸への賛辞をお聞きしましょうか。

南部　先日、「旅」という雑誌を読んでいたら、〝大阪で働いて、神戸で遊んで、京都で寝る〟と書いていましたよ。その号は京都の特集号なのに、神戸が遊ぶのに一番面白いとありました。夜の神戸なんかみなさん、どうですか。

滝川　神戸は、むしろ他所の人の方が楽しい、面白いといいますね。

橋本　昨年開いたＪＣの全国大会でも評判が良かったですからね。

滝川　先日広島へ行ったとき、広島のバーの女性が、月一回は神戸へ買物に行くと話していましたよ。よほど金持ちのホステスだろうと思いますがね（笑）

樽本　地理的条件からいっても山があるし、海が近いというのは最高ですな。

藤堂　それだけにご自身としては伸びる限度が感じられますね。大都市に発展する障害にはなっていると思います。

樽本　方角のことで北や南といわずに、山側や浜側というのは神戸の人だけでしょう。上へあがるとか下へさがるとかいいますね。

橋本　西や東といえば神戸っ子は国際的に活躍している人が多いですね。ここにおられる藤堂さんも世界中を回られたんでしょう。

樽本　カナダ―アメリカ―欧州―東南アジアを回ってウラや表の活躍だけど、この間まで韓国へ行っていたんだろう。

藤堂　さっき帰って来たんです（爆笑）

編集部　外国からみた神戸観はどうですか？帰ってこられてお感じになることも多いかと思いますが……。

木下　いいから帰ってきたんだよなあ（笑）

藤堂　一ヵ月半の旅でしたが、広島ＪＣの理事長とずっと一緒だったんです。いろいろ話をしましたが、広島の理事長はＪＣに入ったとき、一般市民と少しちがった団体のような感じを受けたが、今は変ってきて、市民の土台になろうとしている様子でした。それは樽本新理事のご意見と一緒です。神戸の良さという点でいろいろ話は出ましたが、その良さで警戒しなければいけないのは神戸を追い越そうという気分が他所ではあるということです。まず神戸方式なり兵庫方式をよく知りたいという感じが強かったですね。

それと神戸は国際港都だけに美人が多いとよくいわれますよ。ショッピングにしても外国によく知られており、神戸のある婦人洋品店の名を告げられましてね。それもパリでですよ、びっくりしましたね（笑）

南部　神戸っ子は国際人ですよ。藤堂君もたった今、外国から帰ってきたというのにずっと一緒に飲んでいたような感じです。田舎の方ではわざわざ外国へ行ってきたような感じをぷんぷんさせる人がいるでしょう（笑）その点神戸っ子は洗練されているということですよ。

〈神戸オリエンタルホテルにて〉

―文責・編集部―